



発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

事務局 Tel 契約手続き中(未定)

小網代通信

2017年 11月号 VOL-233

今月の内容

- | | | |
|----------------------------|---------------|---------|
| ・連絡事項 | 編集委員 | 1ページ |
| ・「海外レース参戦記 ファストネットレース(後編)」 | 児玉 萬平 (テティス4) | 2~4 ページ |

連絡事項 (編集委員)

1. < 秋のクルージング と ハーバー整備作業 は、中止・延期となりました >

超大型の台風21号接近により10月21日(土)~22日(日)のクルージングは中止となりました。また、ハーバー整備作業も28日(土)29日(日)に予定されていましたが、長雨と台風の影響により湾内の透明度が悪く、事前調査を行うことができないため延期となりました。気象庁によると、超大型(風速15メートル以上の強風が半径800キロ以上)の台風が日本に上陸するのは、解析記録が残る1991年以降初めてとのこと。21号は23日未明に静岡県御前崎市付近に上陸し、そのまま北上。KYC艇の被害はありませんでしたが、シーボニアや江の島のハーバーには大きな爪痕を残しました。

2. < 第55回 小網代カップレース 11月3日(祝金)~4日(土)行われました >

参加艇13艇により開催、KYCから「ALPHA」「くろしおV」「テティス4」の3艇が参戦いたしました。IRCクラスの成績は、優勝艇「GEFION」2位「テティス4」3位「propaganda」4位「ALPHA」と上位にホストクラブ艇が入りました。昼夜レース経過を見守った20人余りのスタッフは、恒例の温かいおでんと熱燗のワンカップをフィニッシュ艇に届け、無事レースが終了したことに安堵していました。来年のレースも、クラブメンバーの皆様の参加とスタッフへの協力をお願いします。



小網代カップレースの朝

3. < 12月9日(土) KYCミニクリスマスパーティを開催いたします >

今年も残り少なくなりました。船の整備などしながらご参加ください。今年は、海外クルージング・ロングクルージングやレースなどの体験談(昔話から現在まで)を伺い、またこんな話あんな話など船や安全についてなどを聞きながら、年末のひと時をメンバーの皆様と過ごしませんか？

《日時》 12月9日(土) 午後2時~5時 《場所》 クラブハウス 2階サロン

《会費》 おひとり 1,500円(年齢、性別問わず 但し、就学児童以下を除く)



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会11月20日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

ファストネットレース 参戦記(後編)

テティス4 児玉萬平

クラス40という艇

日本ではあまりなじみのない艇種であるクラス 40 は、2005 年に発表されたボックスルール(フォーミュラー)に基づいて建造された総重量 4.5 トンの 40ft艇である。当時既に大フリートとなっていたクラスミニ(6.5m)と世界一周レースで有名になった60ft艇(現IMOCA60)クラスの中間の大きさで、ソロ・ショートハンドで高速大洋横断が可能なモノハル艇として計画され、マスト・スパー以外はカーボン素材などを禁止してコストを抑え、プロだけでなくアマチュアセーラーでもチャレンジできる事を狙って設計されている。既に 150 艇以上がレースに参加しており、特にヨーロッパで急速に拡大してきた。

ファストネットレースを主催する英国ロイヤル・オーシャン・レーシングクラブ(RORC)はレーティングルール IRC の推進母体でもあるが、同レースでは IRC クラスに加え、レーティングに縛られないマルチハル、ボルボオーシャン(VOC65)、IMOCA60、それにクラス 40 のフリートを入れて上限参加艇数 365 としていた。エントリーは Web から行われたが、開始 5 分で締め切りとなったと聞いた。

レースエントリー風景



ソレント海峡のスタート

8月6日、晴天の朝9時30分、多くのレース艇とともに舷を接して泊まっていた Cowes Wharf Marina をドッグアウト、チェックインの為のゲートボートに向かう。チェックインでは各艇の荒天用セイルを上げて通過することが義務付けられており、オレンジの蛍光カラーでできたストームジブ、トライスル(Class40 は5ポイントリフ)を上げたレース艇団がゲートボートに向かう様子はあたたかもオレンジ色の羽の蝶々の群れが行進しているかのようなファンタスティックな光景であった。

スターティングヘルムスマンに指名された私だったが、RYS(王立ヨットスコードロン)前に設定された半マイル以上はあるスタートライン付近に遊弋する大レース艇団と傍若無人に走り回る見物艇の迫力に若干の緊張と気後れを覚える。

午前11時最初のマルチハル艇のスタートに続き、午前11時10分の我々Class40とIMOCA60、約35艇のスタート時刻が迫る。折しも転流したばかりのソレント海峡の下げ潮(追潮)に乗り、18ktと予報より風速の上がった西の順風に向かっのスタートとなった。スターボード・タックでポートエンドに向かう。このラインで行ける・・、と思った瞬間、下からIMOCA60「Hugo Boss」の切り上げを喰う。10ktを超えるスピードで同艇の角の様に天に向いたフォイリング・フィンが恐ろしい勢いで迫って来て、あっという間に先行され、風も取られてしまった。

スタート後は最狭0.5マイルのソレント海峡の出口に向かってタッキングを繰り返し、多くのレース艇とのミートをかわしていく。スピードが同じClass40 同士のぎりぎりの交錯が続く中では、私のヘルムの反応が遅れてタッキングに失敗する場面もあった。それでも海峡を出るまでの2時間のヘルムスは、以降経験したくてもできない興奮と充実感を味わった。



ファストネットロックまでビーティング

夕刻近くなると、我々から1時間半後にスタートした Maxi や VO65 の艇団が迫ってくる。どの艇も夕日に照らされて輝く黒いセールが美しく、舷側にずらっと並んでハイクアウトするクルーの姿が豆粒の様に見える。逆潮に変わった潮を避けるため岸沿いにルートを引くが、徐々に風が落ち、夜半には 10kt 以下となってしまう。そんな中 TWA(True Wind Angle:真の風の角度)を 50 度に落とせ、スピードを重視してくれと指示される。自分の常識では上り角度は落としても、せいぜい 45 度かと思うのだが・・・色々試してみるが 5 度落とせば確かに 0.7kt~1.0Kt はボートスピードが上がるのが判ってくる、そういう性格の艇なのだ。



虹ダブルリング(雨あがりの夕方)

まる一日以上たった 8 月 7 日の夕刻、英国南西端のランジエンドに取り付いても Class40 の第二艇団はほとんど団子状態、周りに十数艇の帆影が見えている。前述の潮のゲートに間に合わなかった我々だったが、夜間の風速の上昇に助けられてか、なんとかそれ以上引き離されないで走っている。

この季節の英国の日没は遅い、日が沈むのが 8 時過ぎ、9 時ごろまではまだ十分な明るさがある。その夕日の中にアイルランドの島々のシルエットが見え始め、そして暗くなったと同時に、未だ相当な距離があるファストネットロック灯台の閃光が見えてきた。



ファストネットロック回航

周りのレース艇の航海灯が回航点に向かって徐々に収れんするかのよう近づいてくる。数えてみると 15 艇はいる。タッキングを繰り返しながらファストネットロックに近づくので航海灯も赤・緑・白と様々に入れ替わる。

深夜 0 時 55 分、ファストネットロック回航、10 艇以上(うち Class40 は 6 艇)がほぼ同時刻に回航、A2 ジェネカーを展開する。あたかもクラブレースの上マーク回航の様な慌ただしさ、これがスタート後 2 日半もたつての光景なのかと半ばあきれる。満月にシルエットで浮き出される屹立したファストネットロック灯台の姿が神々しい。

20kt ラン

迫力のジェネカーラン

回航後、目の前に横たわる TSS の端(仮想回航点)を越えたところでジャイブ、長いポートタックのパワーランに入る。風は 17kt~22kt、速度は軽く 14kt を超える。キールは常時キーンという金属音にも似たバイブレーションの音を発している。時折入る 25kt オーバーのブローでは 20kt 以上のサーフィングが連続する。この程度の風でごく自然に 14kt を越えていく Class40 のパフォーマンスに驚嘆するばかりだ。ましてや 20kt オーバーは全く異次元、未知の世界の体験だった。



今回の最高速度は 23.6kt、スプレイも半端なく、石礫のように飛んでくるが、良くデザインされたハードキャンピーと適度に角度のついたベンチのおかげで快適に過ごせる。

この快走で、回航後ほぼ 11 時間余りでシリー諸島の南端にあるビショップロックの手前に到達、そこにある TSS を回ってプリマスまでの最終レグに入る、風は 16kt 程度に落ちてきたが、TWA80 度から 90 度のリーチングとなって見かけの風速も上がり、このレグでも平均 10kt、時折 14kt を超えるスピードでプリマスのフィニッシュラインに近づいて行った。

例によって遅い日没後の薄暮の中、フィニッシュに向かう先行艇のセールに重なって閃光が見える、黒く横たわる岬の向こう側に様々な色の光がフラッシュする、プリマスの町に上がる花火の様だ。それにしても長く盛大だ、フィニッシュラインへの最終アプローチに入っても終わらない、あとで聞くと 2 日間こわたり大花火大会とコンテストが開催されていたのだ。貴帆はプリマスの港で盛大に打ち上げられる大花火大会のフィナーレに合わせたように 8 月 9 日午後 10 時 12 分、まだ花火の余韻が残り見物艇の群れが走り回る中にフィニッシュした。所要時間は 3 日 11 時間 8 分、Class40 の優勝艇に遅れること 7 時間 50 分、26 艇中 12 位でのフィニッシュであった。

プリマス

運営艇に誘導されて指定された Class40 の泊地に向かい、栈橋でフィニッシュの余韻に浸っていると運営スタッフが来て、「Rolex Fastnet Race Finisher2017」と刻まれたリストバンドを渡される。このバンドを見せれば、水上タクシーもクルー・バーへの立ち入りもフリーだとのこと、良い思い出にもなる粋な小道具だ。

クルー・バーが夜中も開いていると聞き、取るものもとりあえず、皆くだんのリストバンドを着け、水上タクシーで対岸にあるレース本部に向かう。意外と距離があり、肩に担いだ上陸用バックの重さにあえぎながらクルー・バーがある大テントに駆け込み、早速、全員で無事フィニッシュの乾杯をあげた。

11 日金曜日、表彰式に出席するためプリマスに残る。レース期間中続いていた晴天が一転して冷たい西風と驟雨に見舞われた。そうした中でも、続々とレース艇のフィニッシュが続いている。冷たい雨にあたりながらの表彰式だったが、ロレックスの冠を付け、これだけの伝統と大フリートを対象とした表彰式にしてはあつけないほどシンプルな式であった。形式ばらず、飲み物片手、各クラスの優勝艇のみ壇上に呼ばれ、淡々と進行する様は、ある意味新鮮な印象を持った。表彰式場に隣接するクルー・バーの同じテーブルでビールを飲んでいた気さくなご夫婦とお互いの世間話をしながら、ついでの話に成績を聞いたら IRC 総合優勝艇「Lann Ael 2」のオーナー Gaudoux 氏だと聞いて「エー！」とびっくり。曰く、「良いボートと良いクルーがいて幸せだ、帰りのランニングは最高だったね」と・・。

表彰式の後、Class40 の優勝スキッパー Maxime Sorel と町のレストランで一緒に食事をした、まだ 30 歳前後のあどけない顔をして静かに話すマキシムは橋梁構造計算のエンジニアだという。若いうちからマルチハルのシンジケートに参加し、ヨットの実績を積み上げてスポンサーを見つけ、艇を作り、レースに出続けている。そのための時間を作り出すのに起業し、エンジニアの仕事もスポンサー対応も一人マルチでこなしているという。彼の物腰からはそんなスーパーヨットマンには到底見えない。気負わずに、何の衒いもなく語る自然体のトップセーラー達、私にとってファストネットレース表彰式の印象は、日常の中にあっても一級のチャレンジ精神を普通に持っている、そんな世界観を持った人間たちと時間を共有できた場に参加できた満足感が残った。ただ、半端でない寒さを除いてだが。

フィニッシュ泊地

